

藤原京左京五条四坊の調査（第29—17次）

（昭和56年1月）

この調査は膳夫町と南浦出屋敷町を結ぶ市道の拡幅工事に伴う事前調査である。工事は昨年度施工区間（第27—14次調査。四条条間路・四条大路を検出。概報10）の南200mの間について実施されるもので、調査はこのうち五条条間路想定位置を中心に南北39m、東西1.9mの調査区を設けて実施した。

調査区の層序は、上から耕土、床土、暗灰色粘土、黄色粘土となる。遺構検出面である黄色粘土層上面は南に向って次第に高くなりながら香久山の山裾に連なっている。調査の結果、五条条間路とその北側溝のほかにも散在する柱穴3を検出した。北側溝は幅1.2m、深さ0.5mの素掘りの東西溝で、溝埋土の暗褐色粘土からは藤原宮期の土器少量と馬歯片が出土した。溝は路面側にあたる南壁が垂直に近く掘られており、この状況は従来知見と一致している。また、南側溝については精査したが検出されなかった。今回検出した五条条間路北側溝とこれまで2カ所で判明している北側溝の成果とから、その振れを求めると、五条条間路北側溝は方眼方位北に対して、西に約42'振れていることになる。

なお、調査区北方の工事立会の際、条間路北側溝の北方約40mの位置に幅15m、深さ1.6mの素掘りの東西大溝を発見した。溝の断面観察によると、この溝は多量の流水があったというよりはむしろ、滞水状況を示している。四条大路と五条条間路との間では、本調査区の北西方約330mの位置にも幅9m、深さ1.7mの東西大溝（第21—2次、概報7）を確認している。両者の関連およびその性格の解明については今後の調査を待ちたい。



調査地位位置図（1：3000）